

ジャンボ渡辺の学 富士山

皆さん、世界文化遺産登録から3年目を迎えた富士山に登ってみませんか。山梨県側は7月1日、静岡県側は7月10日が山開きです。

何げなく登るだけでは、富士山を知ったことにはなりません。富士山が活火山であることに注目して、その痕跡を探してみてもどうでしょう。噴火の驚異を身近に感じられるはずです。

富士山には4本の登山道があります。最も痕跡が残っているのは静岡県側の富士宮口登山道です。8合目以上で周囲を見回して下さい。大人は

活火山の富士山



渡辺豊博さん

登山中、噴火の痕跡にも注目を

どの大きさの黒い火山弾が地面に突き刺さっています。流線形の石の表面にはひだがあり、石の造形のように見えます。突き刺さっている部分は1センチ以上あるでしょうか。こんな石が平安時代の貞観噴火(864年)、宝永噴火(1707年)の際に火口から飛んできたのです。

山頂火口の周辺にも生々しい痕跡が残されています。測候所があった剣ヶ峰(標高3776メートル)へは、馬の背と呼ばれる急な尾根を登ります。右は山頂火口に続く急斜面、



6合目にある宝永火口周辺を登る親子連れ—2011年8月、静岡県御殿場市、渡辺豊博さん提供

左も大沢崩れに続く急斜面。身がすくむかもしれませんが、足元に注意しながら進んで下さい。

赤、黒、褐色、灰色の4色によるしま模様は足元で観察できます。噴火の噴出物が、成分や冷え方の違いで色分けされたものです。鉄分が多くて急激に冷やされると赤く、ゆっくり冷やされると黒くなったりと考えられています。

山梨県のみなさんは吉田口登山道に登ることと思います。登りきった火口が見える場所です。登山者が多いのですが、体力に余裕があるなら本山の山頂である剣ヶ峰まで足を延ばして下さい。

「大内院」と呼ばれる山頂火口は、直径約800メートルあります。「お鉢巡り」と呼ばれている山頂の火口縁を一周するトレッキングコースの所要時間は約1時間半です。今は水蒸気の噴気もなく、おとなしく見える火口ですが、ここも御嶽山や口永良部島と同様に暴れた歴史があったことを想像して下さい。

ただひたすら山頂を目指すだけでは噴火の痕跡を見逃してしまいます。周囲を見渡して、活火山の富士山を体験して下さい。

(わたなべ・とよひろ)
都留文科大教授